

公表資料表紙

平成28年度「大阪市英語力調査」（「英検IBA」）における新北島中学校の結果の概要と今後の取組について

大阪市では、生徒の英語力の充実と向上を図るため、大阪市教育振興基本計画*に基づき、英語イノベーション事業*の一環として、「大阪市英語力調査」（「英検IBA」）を実施いたしました。この調査の目的は、生徒が自らの英語力を的確に把握するとともに、学校における英語の指導の改善を図ることです。

学習指導要領における中学校英語の目標は、「外国語を通じて、言語や文化に対する理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図り、聞くこと、話すこと、読むこと、書くことなどのコミュニケーション能力の基礎を養う」と示されております。本調査で測定できるのは英語力の一部ですが、本校では、結果をふまえ、生徒の総合的な英語力向上を目指してまいります。

1 目的 (1) グローバル社会において活躍し貢献できる人材の育成をめざし、生徒の英語力の充実・向上を図るため、本市教育振興基本計画に基づき、生徒に求められる英語力や学習の習熟過程等を把握・検証する。

(2) 生徒が自らの英語力を的確に把握するとともに、生徒の英語力の実態を分析することにより、各学校における学習指導の改善、工夫に役立てる。

2 対象 大阪市立全中学校 生徒 1~3年生

※本校では	3年生185人	平成28年11月 7日(月)実施
	2年生144人	平成28年10月 31日(月)実施
	1年生159人	平成28年10月 31日(月)実施

3 内容

学年	英検IBAの 種類	英検(目安)	テスト内容		満点 スコア
			リーディング 問題	リスニング問 題	
3年	テストC	英検準2~5級レベル	35題	30題	1100点
2年	テストD	英検3~5級レベル	35題	30題	1000点
1年	テストE	英検4級・5級レベル	35題	25題	800点

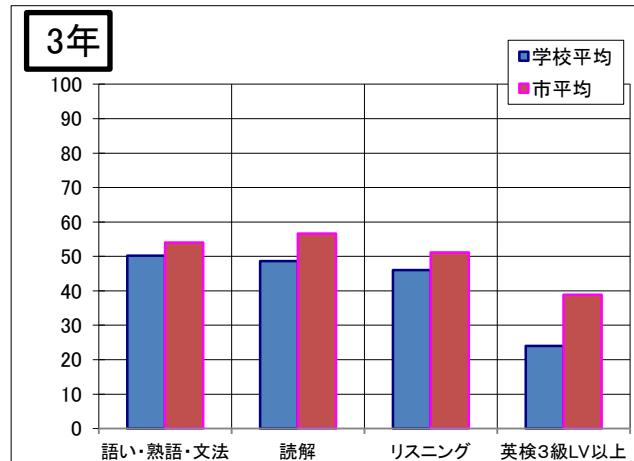
*大阪市教育振興基本計画…本市の教育振興のための施策に関する基本的な計画

*英語イノベーション事業…本市の英語教育強化を図るための事業

平成28年度「大阪市英語力調査」(「英検IBA」)結果の概要と今後の取組 新北島中学校

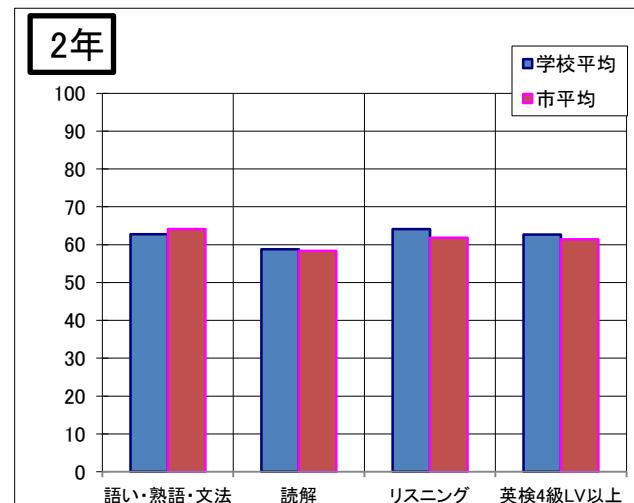
3年	語い・熟語・文法	読解	リスニング	英検3級LV以上
学校平均	50.2	48.6	46	24
市平均	54.0	56.6	51.1	38.9

(%)



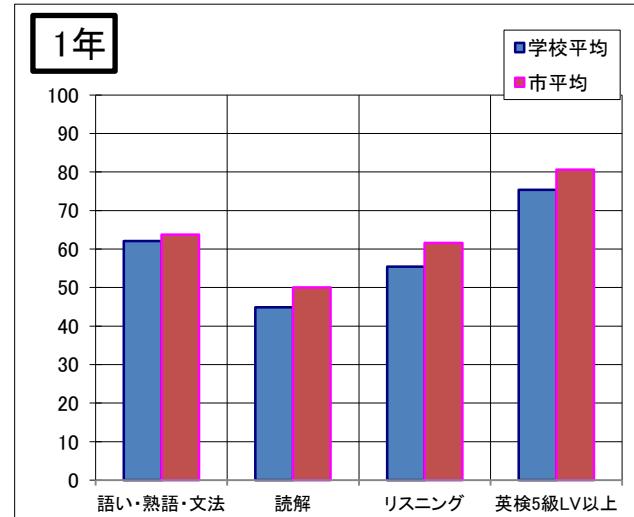
2年	語い・熟語・文法	読解	リスニング	英検4級LV以上
学校平均	62.8	58.8	64.1	62.7
市平均	64.1	58.4	61.8	61.4

(%)



1年	語い・熟語・文法	読解	リスニング	英検5級LV以上
学校平均	62.1	44.9	55.4	75.4
市平均	63.7	50.0	61.6	80.6

(%)



結果の概要と今後の取組について

※各学年において実施した調査は、それぞれ種類が異なるため、学年間の正答率を比較することはできません。

※「語い・熟語・文法」「読解」「リスニング」の値は分野別平均正答率

3年

英検(目安)準2～5級:スコア 0～1100点

《結果の概要》

「語い・熟語・文法」の分野の正答率は約5割で市の平均にもっとも近い結果であった。しかし、「読解」と「リスニング」は正解率が5割以下であり、「読解」は約8%、「リスニング」は約5%市の平均を下回った。

《今後の取組》

読解力の定着に向けて、基礎的な英文の構造理解のための、より丁寧な語順解説や、教科書以外の教材を多く読む機会を設けるなどの工夫をする必要がある。リスニングに関しては、「リスニング」力向上にC-NETによる授業でより多くの聞き取りを活用した授業展開を行う。

2年

英検(目安)3～5級:スコア 0～1000点

《結果の概要》

「読解」「リスニング」とともに正答率は市の平均をうわ回っているが「語い・熟語・文法」の正答率については市平均を2%下回った。「英検4級LV以上」についても大阪市平均を上回った。

《今後の取組》

語いの定着などの基礎的・基本的な知識・技能の習得に力を入れて取り組む。特に、語い力の向上については、できるだけ多くの語彙に触れさせるだけでなく、何度も授業で復習するなど、知るから覚えるプロセスを丁寧に指導する。読解については、生徒の習熟度に応じた長さの長文に取り組むなど、単語ごとの意味を理解することよりも、全体の内容把握ができるようになる演習を取り入れる。

1年

英検4・5級(目安):スコア 0～800点

《結果の概要》

「語い・熟語・文法」の分野の正答率は約6割で市の平均にもっとも近い結果であった。しかし、「読解」は正解率が5割以下であり、「リスニング」についても正答率は6割以下で「読解」は約5%、「リスニング」は約6%市の平均を下回った。

《今後の取組》

語いの定着などの基礎的・基本的な知識・技能の習得に力を入れて取り組む。読解については、生徒の習熟度に応じた長さの長文に取り組むなど、単語ごとの意味を理解することよりも、全体の内容把握ができるようになる演習を取り入れる。リスニングについてはC-NETを活用し授業での英語の聞き取りを多く

